

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・日之影町	450006	1	平成19年度～21年度	平成19年度～21年度
活性化計画の区域				
下小原地区（宮崎県西臼杵郡日之影町）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保	11.09ha	11.09ha	100%	

(コメント)

農業用用水路及び農道の整備・保全により条件整備され、機能確保された農地が11.09haとなり目標を達成することができた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
小規模農林地等保全整備	用水路工 L=573.3m 農道工 L=150.0m W=2.0m		日之影町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
下小原用水組合	平成19年度	平成21年度	平成22年 3月15日
事業の効果			

当地区の営農に欠かすことのできない用水路は、老朽化による取水能力の低下や漏水により多大な維持管理労力が必要とされてきた。

また、頻繁に使用する農道（耕作道）は急勾配かつ未舗装のため、降雨時などは耕作機械等の通行が不可となるなど地区の営農に支障を及ぼしていた。

今回、これらの施設を整備したことにより、施設の維持管理労力が大幅に軽減され、農業用水の安定供給が確保された。農道は舗装したことにより、耕作機械の安全な通行が確保され、農産物の品質向上や農地の保全に大きく寄与している。

3 総合評価

(コメント)

当地域は急傾斜地に階段状の農地を拓き、農業用用水は約3.5km上流の渓流から引水するなど、厳しい営農条件のなか、水稻や肉用牛、林業を主体とした営農を行ってきた。近年はミニトマトのハウス栽培に取組み、高収入な営農を目指している。しかし、農業従事者の高齢化、若者の流出に加え、老朽化した用水路や未整備の農道の維持管理費の増大は耕作放棄地の拡大や過疎化の進行を加速させる大きな要因となっている。

今回、事業により営農の基盤となっている用水路及び農道を整備したことにより、維持管理労力が大幅に軽減され、営農条件が大きく向上した。その結果、住民の営農意欲が向上し、後継者育成や農地の保全が図られた。

さらには農林産物の女性加工グループ「小原の里」の活動も活発化し、また、若者が中心となって夏祭りを復活させるなど、地域の活性化及び定住に効果を発揮している。

しかし、まだまだ営農条件や生活環境が充実したとは言えず、今後定住を促進していくためには、集落道の整備や営農飲雜用水の整備を始め、住環境などの整備が必要と思われる。

4 第三者の意見

(コメント)

中山間地域の劣悪な営農条件を改善する用水路と農道整備が目標どおり行われており、妥当な評価がなされている。これにより、維持管理コストの削減や生産性向上はもちろん、営農意欲の向上と地域の活性化につながることが期待される。

(九州大学 大学院農学研究院 教授 福田 晋)

【記入要領】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広に記入すること。